

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：12605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00778

研究課題名(和文) ICTを用いた英語協働学習のタスクと評価のための指標開発と展開

研究課題名(英文) Developing criteria to assess online L2 collaborative learning

研究代表者

佐藤 健 (Sato, Takeshi)

東京農工大学・工学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：40402242

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ICT利用オンライン協働ライティングの効果、及び学習者の意識変化について、オンライン上での学習プロセスを観察するルールを用い、協働学習がうまく進みタスクを遂行できたグループと、うまく進まなかったグループの比較を行いました。その結果うまく協働活動を行えなかったグループはタスクの初期段階でつまずき、その後の作業も満足いく成果を出せなかった結果、協働学習への評価が低くなる一方、遂行できたグループはタスクが進むにつれ言語意識が高まり、協働学習への評価も高くなることが分かった。故に本研究はオンライン協働学習タスクを成功に導く指標は「タスクの初期段階の協働性」と「言語意識の芽生え」であると結論づけました。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、複数の人々が1つのドキュメントを共有する状況での協働外国語学習の可能性を追求すべく開始しました。しかし研究期間中に新型コロナウイルス感染症が広がり、ICTツールを用いたオンライン授業が急速に広まった結果、本研究は国内外の研究や実践に示唆を与えるものとなりました。また本研究ではタスクを3つの時系列に分け、参加者の関与度や意識変化を定量的、質的に分析しました。これは学習者の活動プロセスを可視化するツールの開発によって可能となりましたが、このアプローチを用いた研究はまだ多くはありません。よって本研究は研究結果だけでなく使用ツールや混合研究の方法論においても新規性と独創性を持つものと考えられます。

研究成果の概要(英文)：We conducted studies to compare the effectiveness of online L2 collaborative writing using ICT and examined the changes in learners' attitudes between two groups: one that successfully completed the assigned task and the other that did not, classified by the participants' online collaborative learning processes. The results showed that the unsuccessful group experienced difficulties in the early stages of the task and consequently showed unsatisfactory performance in subsequent tasks, resulting in their negative evaluation of collaborative learning. On the other hand, the successful group demonstrated an awareness of the languages they shared with the others as the task progressed. This led to their positive attitudes towards collaborative learning. Therefore, this study concludes that 'early stage collaboration' and 'development of language awareness' serve as crucial indicators of successful online L2 collaborative learning activities, highlighting the significance of our research.

研究分野：応用言語学、外国語教育、英語教育

キーワード：Collaborative learning second language writing Mixed method research CALL CMC Learning process Online collaboration Writing

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

ICTを活用した外国語教育が、教室や自宅のパーソナルコンピュータではなく、スマートフォンやタブレットのような個人所有の携帯デバイスを利用するBYOD環境に移行しています。これにより場所や時間に縛られず学習が可能となり、おもに教室にて行われてきたものとは異なる新たな学習スタイルが生まれつつあります。さらに、ICT環境では学習者のアクセス履歴が記録され、「何が学習過程で起こっているのか」を観察することが可能になりました。このような状況下で、BYOD時代の新しい外国語学習の全体像を把握し、その輪郭を明確に提示することが重要と考え、本研究に着手しました。

### 2. 研究の目的

上記の背景を考慮し、本研究ではBYOD環境での外国語学習における「協働学習」に焦点を当てました。具体的には、英語を用いてオンライン上で協働しながら行う活動のプロセスを観察し、協働学習がどのように機能し、どの要素が参加者の協働学習に対する肯定的な態度に寄与しているのか、そしてそれらを評価するための指標は何かを探求することを目的としました。

### 3. 研究の方法

研究代表者、研究分担者が所属する2つの大学に所属する98名の学生に対して、Googleドキュメントを用いてオンライン上で1つのドキュメントを4-5名で構成されたグループ単位で共有し、非対面で並行して英文エッセイを作成する課題を行なってもらった。各グループの活動プロセスは、Googleドキュメントの拡張機能ツールを用いて、アクセス回数、執筆語数、編集語数を視覚化し、活動がスムーズに行えたグループと、うまくできなかったグループがあることが観察された。

学生には課題の前後に協働学習の有用性、態度、抵抗感についての選択式アンケートに回答してもらった。課題終了後に各グループの中からランダムに選出した1人の学生に対して自身が行った協働ライティング活動プロセスを振り返ってもらい、活動期間中の意識の変化について回答してもらう半構造化インタビューを実施した。協働ライティング課題は時系列ごとにプレインストーミング、ライティング、校正の3段階を設定し、インタビューではそれぞれの段階における協働活動プロセスについて話してもらうようにした。課題前後で実施したアンケート結果とインタビューでの回答データを混合研究法の手順に沿って分析し、オンライン協働活動学習の諸相を捉えることを目指した。

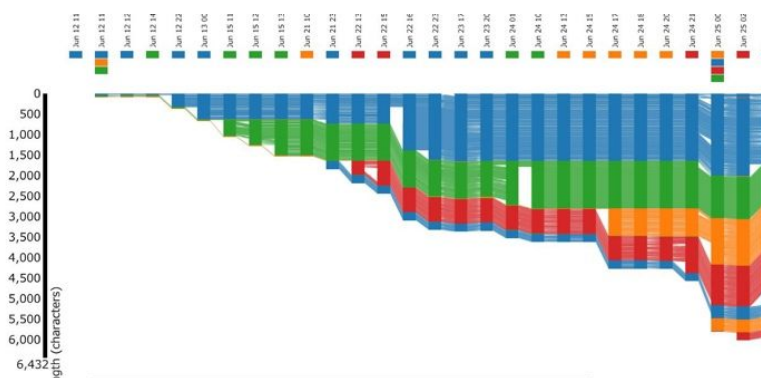
具体的には、活動履歴視覚化ツールを用いて協働ライティングがうまくできたグループとそうでないグループを分け、それぞれのアンケート結果を確認した上で、2つのグループの差はどの段階でどのように生じたかを検証した。

本研究では、研究代表者と研究分担者が所属する2つの大学の98名の学生に対して、Googleドキュメントを活用して4-5名のグループで協働してオンライン上で1つの英文エッセイを執筆する課題を実施しました。各グループの活動プロセスは、Googleドキュメントの拡張機能を使用してアクセス回数と時間、書いた語数、修正した語数を視覚化し、グループごとの作業の進行具合を観察しました。

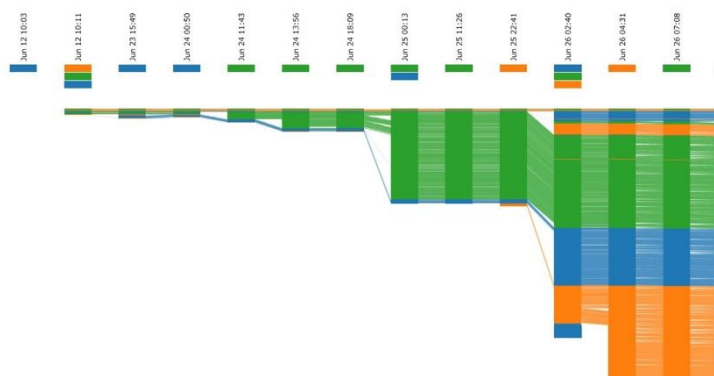
学生には課題の前後で協働学習の有用性、態度、抵抗感に関するアンケートに回答してもらいました。また、各グループからランダムに選出した1人の学生に半構造化インタビューを実施し、協働ライティング活動プロセスを振り返ってもらうと共に、活動を通じた協働学習への態度や意識の違いについて回答してもらいました。課題前後のアンケート結果とインタビューの回答データを混合研究法の手順に従って分析し、オンライン協働学習活動の全体像を明らかにしました。具体的には、活動履歴視覚化ツールを用いて、協働ライティングがスムーズに進行したグループとそうでなかったグループに分け、各グループのアンケート結果を確認しました。その上で、両グループ間の差がどの段階でどのように生じたかを検証しました。

### 4. 研究成果

学習履歴可視化ツールを用いて、協働学習の過程を可視化した結果を以下に示します。一つは作業が均一に進行し、特定のメンバーに過度な負担がかからなかったグループで、スムーズに活動が進行したと言えます。

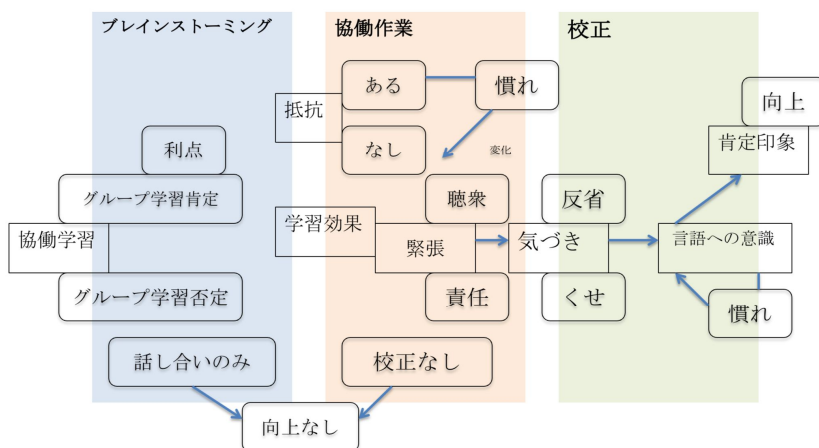


もう一つは、一定期間特定のメンバーのみが作業に関与し、課題提出直前に他のメンバーが協働活動を本格化したグループで、この場合は作業がスムーズに進行していませんでした。



インタビューの回答を文字化し、グラウンデッドセオリーを用いた分析結果によれば、協働活動がスムーズに進行したグループとそうでないグループの間で大きな違いが見られました。協働活動がスムーズでなかったグループは、ブレインストーミングの段階で問題が生じ、その後の活動の評価が否定的になる傾向がありました。対照的に、スムーズに進行したグループは、活動の進行とともに言語への意識が向上し、協働活動に慣れ、その結果として協働学習への態度もより肯定的になりました。

このことから、ICT ツールを活用した協働学習では、活動初期の問題を解消し、活動の成否を左右する要素を把握すること、そして他者との言語のやりとりに対する意識を高めることが、活動の評価を高めることにつながると結論づけられました。これらの分析は、量的および質的データの混合分析、および学習過程の可視化ツールの活用によって、初めて実証可能となりました。



この研究に加えて、BYOD 環境における外国語学習の効果検証に関する研究を並行して進め、その成果を学会発表や論文の形で公開することができました。研究期間中に新型コロナウイルスの感染拡大により、学生からのデータ収集や発表が困難となった期間がありました。その結果、評価指標の開発まで進めることはできませんでしたが、これは次の研究テーマとして引き続き

取り組む予定です。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 小倉雅明	4. 巻 19
2. 論文標題 Samuel Johnson の The Rambler における it 所有表現の選択	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語情報学研究	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sato Takeshi, Lai Yuda, Burden Tyler	4. 巻 34
2. 論文標題 The role of individual factors in L2 vocabulary learning with cognitive-linguistics-based static and dynamic visual aids	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ReCALL	6. 最初と最後の頁 201 ~ 217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/s0958344021000288	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Sato Takeshi, Lai Yuda, Burden Tyler	4. 巻 9
2. 論文標題 L2 vocabulary learning with animated aids -Do learner factors affect L2 production with figurative expressions?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Ampersand	6. 最初と最後の頁 100100 ~ 100100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.amper.2022.100100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Sato Takeshi, Ogura Masa'aki, Burden Tyler	4. 巻 9
2. 論文標題 What does image schema facilitate in English L2 vocabulary processing?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cognitive Linguistic Studies	6. 最初と最後の頁 202 ~ 222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/cogls.20022.sat	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Takehiro, Sato Takeshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Online collaborative writing: learners' perceptions and their changes using data visualization tools and interviews	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Short Papers from EUROCALL 2022	6. 最初と最後の頁 147 ~ 153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14705/rpnet.2022.61.1450	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko Ohashi, Noriaki Katagiri, Koki Sekitani, Takeshi Sato	4. 巻 32 (1)
2. 論文標題 The motivational effects facilitated by ESP digital materials integrated with an e-learning system	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Language Learning and Applied Linguistics World	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本 健広	4. 巻 3
2. 論文標題 トマス・ムアの詩にみられるペルシアの影響 - コサイン類似度による量的分析 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際情報学研究	6. 最初と最後の頁 71-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉 雅明	4. 巻 19
2. 論文標題 Samuel Johnson の The Rambler における it 所有表現の選択	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語情報学研究	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Takeshi, Lai Yuda, Burden Tyler	4. 巻 34
2. 論文標題 The role of individual factors in L2 vocabulary learning with cognitive-linguistics-based static and dynamic visual aids	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ReCALL	6. 最初と最後の頁 201 ~ 217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/s0958344021000288	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakaba Hiroko, Okada Takeshi	4. 巻 10
2. 論文標題 Usage Patterns and Meanings of High-Frequency English Verbs: A Multi-Word Expression Approach to Japanese High School EFL Textbook Analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Applied Linguistics and English Literature	6. 最初と最後の頁 116 ~ 116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7575/aiac.ijalel.v.10n.4p.116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本健広	4. 巻 別冊
2. 論文標題 Googleドキュメントを使用した大学でのピア・ライティングの活用例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 55-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉雅明	4. 巻 18
2. 論文標題 Samuel JohnsonのThe Ramblerにおける単語連鎖 4-gramの構造的分類の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語情報学研究	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Takeshi, Murase Fumiko, Burden Tyler	4. 巻 37
2. 論文標題 An Empirical Study on Vocabulary Recall and Learner Autonomy through Mobile-Assisted Language Learning in Blended Learning Settings	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 CALICO Journal	6. 最初と最後の頁 254-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/cj.40436	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Takeshi, Burden Tyler	4. 巻 17
2. 論文標題 The impact of information processing styles in mobile-assisted language learning: Are multimedia materials effective for every learner?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Electronic Journal of Foreign Language Teaching	6. 最初と最後の頁 154-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Kotaro, Sato Takeshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Intelligent speaker is watching you: alleviation of L2 learners' social anxiety anxiety	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Short Paper of EUROCALL 2020	6. 最初と最後の頁 88-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14705/rpnet.2020.48.1170	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Lai Yuda, Sato Takeshi, Burden Tyler	4. 巻 45
2. 論文標題 Impact of Instruction Explicitness, Cognitive Learning Style, and Modality on the Effectiveness of Cognitive Linguistics-Based Visual Aids for Teaching Prepositions in Taiwanese EFL Classrooms	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 English Teaching & Learning	6. 最初と最後の頁 45-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42321-020-00058-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する



1. 著者名 Okada Takeshi, Sakamoto Yasunobu	4. 巻 1
2. 論文標題 The Development of New e-Learning Cycles Based on the Aggregated Highlighting Information	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Abstracts and Conference Materials for the 19th European Conference on e-Learning	6. 最初と最後の頁 104-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato, Takeshi., Ogura, Masa ' aki., Aota, Shoma., & Burden, Tyler.	4. 巻 1
2. 論文標題 Does an automated translation bot support or hinder L2 collaborative interaction? - In terms of L2 production and motivation.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the XXth International CALL Research Conference 2019	6. 最初と最後の頁 235-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Beh Siwekee, 小倉雅明, 中島悠介, 開沼太郎	4. 巻 10
2. 論文標題 母語ではない言語の学習に求められる教員の資質と教員養成上の課題 外国にルーツのある児童等への日本語指導と日本における英語教育に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪大谷大学教職教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本健広	4. 巻 41
2. 論文標題 データ可視化を用いたコウルリッジの書簡分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済経営研究所年報	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 A blended EFL reading course based on the idea of the learner-annotated corpus	4. 巻 18
2. 論文標題 岡田毅, Somayeh Fathali	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本e-Learning学会誌	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32144/jela.18.0_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeshi Sato, Masa'aki Ogura, Shoma Aota, & Tyler Burden	4. 巻 1
2. 論文標題 Examining the impact of an automated translation chatbot on online collaborative dialog for incidental L2 learning	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Short papers from EUROCALL 2018	6. 最初と最後の頁 284-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14705/rpnet.2018.26.851	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takeshi Okada, & Somayeh Fathali	4. 巻 18
2. 論文標題 A blended EFL reading course based on the idea of the learner-annotated corpus	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本e-learning学会誌	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32144/jela.18.0_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Somayeh Fathali, & Takeshi Okada	4. 巻 34
2. 論文標題 Technology Acceptance Model in Technology-Enhanced OCLL Contexts: A Self-Determination Theory Approach	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Australasian Journal of Educational Technology	6. 最初と最後の頁 138-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14742/ajet.3629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計31件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 13件）

1. 発表者名 小倉 雅明
2. 発表標題 Johnson文法のコーパス調査－itの所有表現を事例として－
3. 学会等名 第18回大阪市立大学言語情報学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小倉 雅明
2. 発表標題 メタファーと 認知 の萌芽を探る 18世紀の文献を中心に
3. 学会等名 日本認知言語学会第23回全国大会ワークショップ「レトリックを展望する：<説得>と<認知・認識>の観点からの再評価」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤 健
2. 発表標題 第二言語習得と認知言語学 言語理論の他領域への 応用可能性について
3. 学会等名 日本認知言語学会第23回全国大会 ワークショップ「レトリックを展望する 説得 と 認知・認識 の 観点からの再評価 」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takehiro Hashimoto, Takeshi Sato
2. 発表標題 Online collaborative writing in the EFL environment: Learner 's perception and its change using data visualization tools and interviews as mixed methods research
3. 学会等名 EUROCALL 2022 Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kotaro Hayashi, Takeshi Sato
2. 発表標題 The effectiveness of the learning software for EFL chunk reading using eye-tracking data
3. 学会等名 CamTESOL 2023 Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takehiro Hashimoto
2. 発表標題 Osorio and The Borderers: The poetic dialogue in quantitative analysis
3. 学会等名 Wordsworth Summer Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takeshi Okada
2. 発表標題 The Need to Create a Competency Framework for Teachers of EAP for Japanese Universities
3. 学会等名 BALEAP PIM: (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takeshi Okada
2. 発表標題 In Search for the Optimal Matching of the EFL Learners and their Reading Materials
3. 学会等名 ECEL 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田 毅
2. 発表標題 －貫性あるカリキュラム策定と授業提供～東北大学モデル～
3. 学会等名 アルクエデュケーションセミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小倉 雅明
2. 発表標題 メタファーと 認識 の萌芽を探る 18世紀の文献を中心に
3. 学会等名 日本認知言語学会第23回全国大会 ワークショップ「レトリックを展望する 説得 と 認知・認識 の 観点からの再評価 」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小倉 雅明
2. 発表標題 Johnson文法のコーパス調査－itの所有表現を事例として－
3. 学会等名 第18回大阪市立大学言語情報学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小倉 雅明
2. 発表標題 名詞形成接尾辞からみるJohnsoneseについて
3. 学会等名 第1回大阪公立大学英文学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋澄成、橋本健広、大西久雄
2. 発表標題 Google for Educationワークショップ
3. 学会等名 外国語教育メディア学会関東支部ラーニングデザイン研究部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamaguchi Takane, Okada Takeshi, Sato Takeshi
2. 発表標題 Japanese college students' perception towards the significance of online peer review via a new e-learning application
3. 学会等名 EUROCAL 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hayashi Kotaro, Sato Takeshi
2. 発表標題 Intelligent speaker is watching you: Alleviation of the L2 learners' social anxiety
3. 学会等名 EUROCALL 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本健広
2. 発表標題 人文学と情報
3. 学会等名 関東学院大学経済経営研究所プロジェクト「AI -人間と社会-」例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本健広
2. 発表標題 Googleドキュメントを使用した協働ライティングと効果の測定についての一試案
3. 学会等名 LET関東支部 ラーニング・デザイン研究部会「第2回 Google for Education ワークショップ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sato, Takeshi., Ogura, Masa ' aki., Aota, Shoma., & Burden, Tyler.
2. 発表標題 Does an automated translation bot support or hinder L2 collaborative interaction? - In terms of L2 production and motivation.
3. 学会等名 The CALL 2019 Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayashi, Kotaro., Sakamoto, Yoko., Sakata, Nobuhiro., & Sato, Takeshi.
2. 発表標題 Can a simple human-like robot improve oral education for students with Social Anxiety?
3. 学会等名 The 2019 Conference of Foreign Language Education and Technology (FLEAT) . ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sakamoto, Yoko., Hayashi, Kotaro., Sakata, Nobuhiro., & Sato, Takeshi.
2. 発表標題 A report on English classes utilizing smart speakers
3. 学会等名 JALT 2019 Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Ogura
2. 発表標題 An Analysis of Grammatical Items in The Rambler
3. 学会等名 Writing Style: A One-Day Symposium (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Beh Siwekee, 小倉雅明, 中島悠介, 開沼太郎
2. 発表標題 母語ではない言語の学習に求められる教員の資質と教員養成上の課題 外国にルーツのある児童等への日本語指導と日本における英語教育に着目して
3. 学会等名 関西教育行政学会2019年7月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本健広
2. 発表標題 Googleドキュメントを活用した協働ライティングの実践報告
3. 学会等名 LET関東支部リサーチデザイン研修研究部会: Google for Educationワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Okada, Takeshi & Sakamoto, Yasunobu
2. 発表標題 A New e-learning System for EFL Teacher Collaboration
3. 学会等名 The 18th European Conference on e-Learning (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 岡田 毅
2. 発表標題 英語教育におけるe-learningと対面式授業の接点
3. 学会等名 宮城県私立中学校・高等学校英語研究会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本健広、佐藤 毅
2. 発表標題 EFL環境におけるオンライン協働ライティング：データ可視化ツールとインタビューの混合法からみる学習者の協働ライティングに対する受容の変化
3. 学会等名 外国語教育メディア学会(LET)第58回全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Sato, Masa'aki Ogura, Shoma Aota, & Tyler Burden
2. 発表標題 Examining the impact of an automated translation chatbot on online collaborative dialogue for incidental L2 learning
3. 学会等名 EUROCALL 2018 Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukiko Ohashi, Noriaki Katagiri, Koki Sekitani, & Takeshi Sato
2. 発表標題 The motivational effects facilitated by ESP digital materials integrated with e-learning system
3. 学会等名 CLaSIC 2018 Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大橋 由紀子・片桐 徳昭・関谷 弘毅・佐藤 健
2. 発表標題 ESPコーパス構築からのデジタル教材作成とその効果
3. 学会等名 JACET全国研究大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本 健広・岡田 毅・松尾 英俊・佐藤 健
2. 発表標題 ICTを用いた外国語教育実践：音読・リーディング・ライティング
3. 学会等名 言語教育エキスポ2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田 毅
2. 発表標題 EFLコンテンツ中心の高大接続のための +eラーニングシステム iBELLES
3. 学会等名 シンポジウム「これからの英語教育 入試、民間試験、高大連携」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 瀬戸賢一、宮畑一範、小倉雅明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 612
3. 書名 〔例解〕現代レトリック事典	

1. 著者名 鬼頭和也・小倉雅明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 80
3. 書名 Easy Writing Output! ライティングから始める英語アウトプット	

1. 著者名 Ogura Masaaki	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Bucknell University Press	5. 総ページ数 191
3. 書名 Johnson in Japan (Chapter 9: An Analysis of Johnson's View of Knowledge: A Corpus-Stylistic Approach)	

1. 著者名 橋本健広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 262
3. 書名 デジタル/コミュニケーション(英語の協働ライティングにおける協働学習の効果の測定に関する考察: 圧縮度に基づく類似度測定法の検討)	

1. 著者名 小倉雅明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 テイエス企画	5. 総ページ数 238
3. 書名 TOEFL iBTテスト必修英文法50	

1. 著者名 丸橋良雄, 林マーシャ, 西山幹枝 (共編著), 小倉雅明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 英光社	5. 総ページ数 125
3. 書名 比較文化から観るグローバリゼーション	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋本 健広 (Hashimoto Takehiro) (70566546)	中央大学・国際情報学部・教授  (32641)	
研究分担者	岡田 毅 (Okada Takeshi) (30185441)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・特任教授  (11301)	
研究分担者	小倉 雅明 (Ogura Masaaki) (40805785)	大阪公立大学・国際基幹教育機構・講師  (24405)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
台湾	Providence University		